

ピース・ウイング長崎 会報

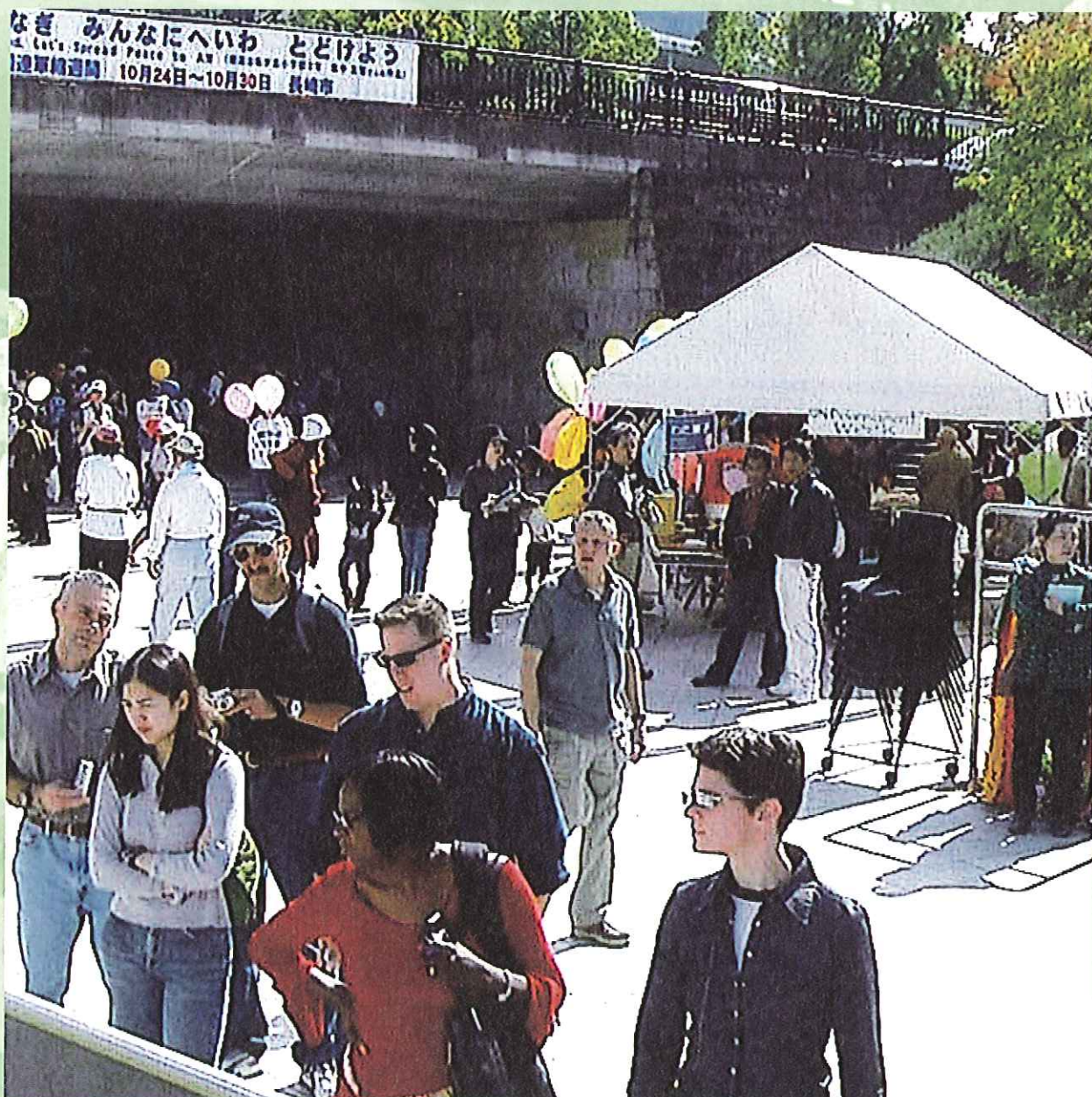
へいわ

104号

長崎

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)814-0056
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 軍縮週間行事「市民のつどい」
- 原爆資料館展示ガイドに従事
- 外国人による日本語弁論大会開催
- 祈念館だより
- 被爆60周年 被爆資料・遺影・体験記全国募集
- 情報コーナー、メッセージ、クイズ、お知らせ



今年の「市民のつどい」は、国際観光船の入港も重なり、多くの外国人観光客が屋外会場を訪れ、原爆被災写真に見入り、紙風船や折鶴にも平和のメッセージを書き込んでいました。

「市民のつどい」

を開催しました

平成16年10月30日(土)、国連軍縮週間中の恒例行事である「市民のつどい」を開催しました。当初予定していた天候にも恵まれ、多彩なイベントに、多くの人で賑わい、例年にもまして活気を見せました。

戦時食コーナー

当協会の設立当初から国連軍縮週間時に実施している「戦時食コーナー」は、今年も例年になく大盛況ぶりでした。例年このコーナーが賑わいをみせるのは、市民平和大行進が終わる午前11時過ぎ頃ですが、今年は、その前に国内外を問わず多くの方々に来ていただきました。特に目立ったのは英語圏や台湾からの訪問客でした。彼らは原爆資料館を見学する前、あるいは見学後に立ち寄り、テーブルに数多く並べられた料理を眺めながら、「What is this?」と尋ねながら興味があるものに手を伸ばし試食していました。

もちろん、長崎市民や市外からの訪問客にも大勢、来ていただき日本が戦争をしていた頃の食事を体験していただきました。

当協会としては国内外を問わず多くの方々に、この「戦時食コーナー」



ではないかと思っています。

での試食を通して、戦争当時の食事を振り返っていただいたことで「平和」の尊さを実感していただけたのではないかと

わた菓子コーナー

平和大行進でお腹を空かせた子どもたちに甘いわた菓子を...と私たちは午前11時にわた菓子機を設置し、スイーツを入れました。

当初は行進がまだ終わっておりませんでしたので、活水のボランティアを行っている学生や地婦連の方々に食べていただいていたのですが、行進が終わるとお客さんがどっと流れてきました。

わた菓子を渡しながらスタッフの一人が「募金お願いね」とにっこり微笑むと、こどもたちはすすんで小遣いの一部を募金箱に入れてくれました。

また、国際観光船が入港していたため外国のお客さんも多く、英語で「Donation for UNICEF, please. (ユニセフへの募金をお願いします)」とわた菓子を渡そうとすると「ダイエット中だからわた菓子はちよつと」と苦笑いしながら財布からドル紙幣を取り出して入れてくれるお客さんもいらっしゃいました。



終わってみると募金も1万円近く集まり、わた菓子コーナーの甘さが行進参加者の疲れを癒したと思うと私たちの苦勞も報われた思いのする秋の一日でした。

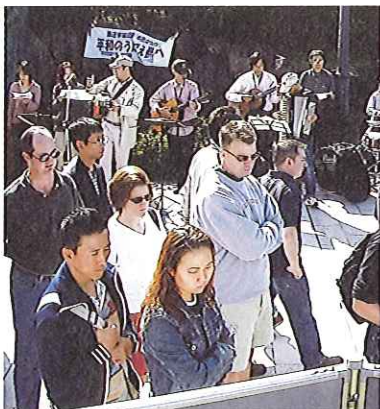
被爆写真パネル展

夜来から明け方にかけての雨の心配をよそに、集合して準備に入ると青空が広がり、長袖シャツでは暑いほどの好天となりました。「市民のつどい」での展示は数年ぶりで当日、

急きよ、パネル展示場所を変更したうえに、英文キャプション付きパネルを追加したり、風にあおられてパネル板が倒れたりするハプニングもあり、果たしてどれだけの人がみられるか一抹の不安がありました。

しかし、国際観光船の入港により、原爆資料館を訪れる外国人観光客のほとんどが、その途中に展示してあるパネルに足を停めて、熱心に見入っていた様子は、まさしく感動ものでありました。また、室園、丸田両部会員は、持ち前の英語力を駆使し、説明役を買って出していました。

今回は、展示場所を変更したため、パネル板片面使用となり、1セットの半分しか展示できず、また、選定にも手間取ったりしましたが、外国人観光客のみでなく、大勢の市民の参加もあるなど、部会員一同で核兵器廃絶を啓発できたことを大いに喜びました。



紙風船コーナー

コーナーでは、市民の皆さんの平和メッセージを添えた紙風船を膨らまして渡すというものでしたが、大半は小学生以下の子どもたちが、平和のメッセージというより、テレビのキャクターや思い思いの絵柄を描いていくという状況で、用意していた赤、青、黄、緑、白の5色、250枚の紙風船は、昼前には無くなってしまいました。

「平和の祈りを記した紙風船を空に飛ばして、その想いが天に届くことを願う」という我々の当初の目論見とは若干異なるが、子どもたちがワイワイガヤガヤと風船に絵柄を書いていく様や、膨らんだ風船を受け



取る時の笑顔は、まさに、我々に「平和」を感じさせる瞬間であり、この瞬間が永遠に続くことを、天に願った一日でした。

音楽部会演奏・合唱コーナー

今回初めてのこころみとして、音楽部会と長崎センター合唱団により平和の歌が演奏されました。ギター、ドラム、アコーディオンなどの楽器の伴奏にあわせた本格的な合唱。「長崎の鐘」、「イマジン」、「翼を下さい」など、心に響く平和の名曲が次々と歌い上げられ、市民大行進を終えた市民の多くが耳を傾けていました。



今までなかなか活動の機会がなかった音楽部会ですが、今回、このような形で市民のつどいを盛り上げてくれました。今後もさまざまな場で活躍してくれることでしょう。

折り鶴コーナー

「折り鶴コーナー」ではピースウォークを終えた人たち、折しも入港中の国際観光船の乗客、修学旅行生



など大勢の人達で賑わいました。

観光船の乗客は南米、北米、オーストラリア、ニュージー

ランド、英国など様々な国籍の人達でしたが原爆資料館を訪れる途中で足を止めてくれました。国際交流部会員の説明に賛同して、平和メッセージを折り紙に書き込み、慣れない手つきながらも一生懸命折り上げる姿がたいへん印象的でした。

事前に折って届けて下さった方々、ボランティアで手伝ってくれた活水高校の平和学習クラブの生徒さん達もいて、首尾良く千羽鶴が完成しました。

今年は昨年と同様、核兵器廃絶を訴える平和メッセージを添えてアメリカのブッシュ大統領に送る予定にしています。

平和の碑巡りウォークラリー

青少年ピースボランティアは、爆心地公園と平和公園内にある被爆建造物等6ヶ所のポイントにボランティアが立ち、ガイドを行う「平和の

碑巡りウォークラリー」を企画、実施しました。コースは、地図を見て順番に巡る「ガイドコース」と、ヒントを頼りに次のポイントを探す「チャレンジコース」の2つを設けました。それぞれのポイントでは、ガイドの後にクイズが出され、全問正解者にはボランティア手作りの金メダルがプレゼントされました。

今年も小学生と保護者のグループや年輩の方など12名の参加がありました。子ども達は地図を片手に次のポイントに走り、ボランティアのガイドもよく聞いてくれました。ゴールした時には、「楽しかった」という子ども達の声が聞こえ、ボランティアにも笑顔がこぼれていました。

ガイド歴3年目のボランティアは、「やっと説明したい内容を伝えることができた」という満足感の反面、子どもと大人へのガイドの内容や話し方を変える必要性も感じていました。



第16回外国人による日本語

弁論大会開催される!!

去る11月6日(土)に原爆資料館ホールにおいて「第16回外国人による日本語弁論大会」が開催されました。

この弁論大会は、当協会が平成4年度より共催事業として企画しているものですが、今年は留学生を中心に県内外から19名の応募があり、一次審査を通過した10名(中国人4名、韓国人3名、ベトナム人、バングラデシュ人、セネガル人各1名)が6日の本選に出場しました。また、今回は高校生が多数来場するなど観客数が200名を超え、例年ない盛り上がりを見せました。



大会では、出場者がそれぞれのテーマに沿って、巧みな日本語でスピーチを行いました。中でも最優秀賞に輝いた韓国の

朴 承旭(パク スンウク)さんは、日韓ワールドカップサッカーを通じて自分の日本に対する気持ちが反発から理解へと次第に変化していった様子を見ごとに表現していました。

また、未来賞(高校生審査員が選ぶ会場賞)と特別賞をダブル受賞したセネガルのジャトウ・シゴさんは、長崎女子高校に留学している高校生でバスケットボール選手としてもよく知られています。一日に何回ライオンを見ますか。」といった日本人から聞かれる奇妙な(?)質問など日本での体験談をユーモアたっぷりにスピーチし、会場から大喝采を浴びていました。

そのほかの受賞者は、次のとおりです。

- 特別賞
黄 婕(コウ ケツ)さん(中国)
- 特別賞
林 仁愛(イム イネ)さん(韓国)

4館合同企画

被爆60周年被爆資料・

遺影・体験記全国募集

来年は被爆60周年です。被爆者やその遺族の高齢化が進む中、被爆の惨状を伝え、恒久平和を訴え続けるために、広島・長崎が共同して、被爆の実相を物語る資料等を全国に呼びかけて募集しています。

事業は、今年7月20日から開始し、長崎祈念館では、11月末現在で遺影(氏名)222件、体験記24点を收藏しました。皆様のご協力をお願いします。

募集対象

- ①被爆資料…広島・長崎の両資料館で保存・展示。
- ②遺影
- ③被爆体験記…国立広島・長崎の両祈念館で保存・公開。

募集期限

平成18年3月31日

応募方法

電話またはファクスでご相談ください。手続きをご案内します。

長崎祈念館に寄贈された体験記の中で、一部を抜粋して紹介します。

両親よ 弟達よ

無事でいてよと 願いつ、

我家の跡に 立った時

木切のごとき 白骨に

今朝の姿は もはやなし

(焼けた)

半焼の父をトタンにのせまして

少女の この手で焼きました

暑い暑い夏の日が

西に入るまで焼きました

一人ぼっちで焼きました

(被爆当時16歳・女性)



展示ガイド

原爆資料館

ガイドを務めて

(A班) 小野百合子



生まれて以来離れたことのなかった、故郷広島から、夫の転勤で長崎にやって来たのは4年程前のことでした。知る人もなく、当初は心細い毎日でしたが、こちらの良い気候やおいしい食べ物、あたたかい人情には幾度となく慰められました。

広島、長崎といえば、誰しも原爆を思い浮かべることでしょう。けれども、広島人で長崎の原爆について、長崎人で広島の原爆について、詳しく知る人はあまり多くないのではないのでしょうか。私もそうでした。

自分はせっかく両方の都市に住みながらこれではいけない、少しでもこちらのことを知らねば、と思い、原爆資料館のガイドに応募いたしました。研修を受けてみて、長崎のこととはもちろん、広島の前爆についても自分がよくわかっていなかったことを思い知らされました。思い込みだけでこれまで信じていたことや一般に広く言われていることだから、



と調べてきたことが、実際に残っている資料とは違うという発見(?)もしたり、いまだに日々勉強です。来館者のご質問にしろもどろろ答えたり、ちょっとわかりかねますと答えたり、それが書いてあったところ、イメージにのことが書いてあったところ、と思ったり、お恥ずかしい次第です。来館された百パーセントの方に満足していただくのはむずかしいと思いますが、お客様に来てよかったと思われよう、これからは努力したいと思っています。

展示ガイド

「はじめてのガイド」

(B班) 古川 康恵



「長崎に落とされた原爆のことをもっと知りたい」という気持ちから、展示ガイド業務に就きました。

研修を終え、ガイドさんの黄色いジャンパーを身に付けて1ヶ月半になります。来館者の方から質問を受けるとき、自分の知識の乏しさに反省するばかりです。

手引書を片手に奮闘する私のつたない説明にも、子どもたちは熱心に聞きながらメモを取ってくれます。その度に、もっと知識を増やして、次は解りやすく伝えたいと思っています。

原爆資料館にはさまざまな世代の方が来られます。当時を思い出されて涙する方を前に、被爆した時の感情や思いを知ることが出来ず、戸惑い言葉をかけられないこともありま

した。59年経った今もお、被爆によって心に痛みを抱えられている人が、いらっしやることを知りました。



来館される方に、戦争や原爆の恐ろしさ、平和を維持していく大切さを、原爆資料館でより強く感じてもらいたいと思います。

私も展示ガイドとして実際にあった原爆被害の実態を正しく知り、さまざまな世代の方々と接しながら、成長していきたいと臨んでおります。

祈念館だより

ピースネット本格稼働

インターネット会議システムを利用した平和学習（ピースネット）が9月から本格的に始まりました。修学旅行で長崎に来る機会が少ない遠隔地の学校の生徒にも、被爆者の生の証言を届けようと国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と（財）長崎平和推進協会が共同で企画。これまでに、茨城県つくば市・さいたま市・横浜市・千葉県浦安市などの小中学生

に向けて被爆者の声を発信しました。

被爆者の凄まじい体験談に真剣に聞き入る生徒たちの様子、パソコンの画面越しに伝わってきています。また、講話の後には「戦争をなくすためにはどうしたらいいか」「自分

が生きていることをどう思いますか」といった質問が相次いで出され、講話者の継承部会・和田耕一さんや恒成正敏さんが一つ一つ丁寧に答えるとともに、思いのこもった平和へのメッセージを語りかけてくださっています。

利用した学校の生徒からは「戦争は全然関係ない人が犠牲になって死んでしまうので、戦争は絶対によつてはいけないと思います」「ぼくが今できることは人を思いやる心を持つことだと思うので、どんなに小さなことでもいいから、人を思いやる心を持ってみんなで協力しあっていたいと思います」といった感想がよせられ、平和についての考えを深めるきっかけにもなっているようです。

このほか、10月にはアジア青年交流事業の報告会として、ピースネットと長崎と韓国の青年が交流。また、11月には長崎の青少年ピースボランティア（長崎市、（財）長崎平和推進協会）と広島の中・高校生ピースクラブが、それぞれ意見交換を行いました。

ました。

今後、より一層事業を周知し、一人でも多くのひとに平和のことを身近な問題としてとらえていただく機会を提供していきけるよう、努めてまいります。

国連軍縮週間イベント

「ナージャの村写真展」開催

交流ラウンジでは、国連軍縮週間にちなんで10月22日（金）から11月4日（木）まで、「ナージャの村写真展」を開催しました。これは、チエルノブイリ原発事故により、放射線汚染地帯に指定された地域に住む人々の生活の様子を、写真家・本橋成一さんの作品を通して紹介したものです。

強制移住を余儀なくされながらも、生まれ育った土地を愛し、住み続ける村人たちのひたむきな思いが15点の写真から伝わってきました。

また、事故の被害状況のほか、祈念館の特徴の一つでもある被爆医療協力についての情報をパネルで展示。長崎大学を中心に、被爆地長崎で培ってきた技術を生かした協力活動について紹介しました。

感想ノートには、「突然、自らの



暮らす生活の場を奪われて、かつ放射能によって自らの健康をおびやかされている村の人たちの気持ちを考えると：」「原発に対して、ただ単に賛成・反対と唱えるだけでなく、そのプロセスに対して一人ひとりが真剣に考え、討論することこそが大切だと考えます」といった声が寄せられました。

今後、祈念館の特徴をふまえた展示の充実を図り、多くのひとに来館してもらおうとともに、利用者に、より満足してもらえる施設を目指します。



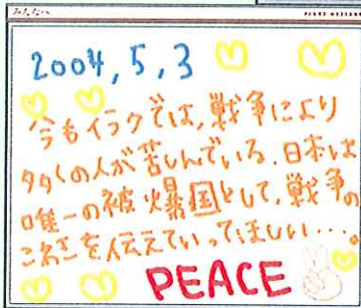
情報コーナー メッセージ



今ある自由、今ある幸
せ、青い空、向日葵、
家族感ること、喜ぶ
こと、悩むこと。



No More Nagasaki
地球に生きてる
全ての人が毎日
笑って生きてほ
しいです。



控	大	佐
免 <input type="checkbox"/> 雪	王 <input type="checkbox"/> 校	滋 <input type="checkbox"/> 正
幕	棋	頌
壮	官	形
広 <input type="checkbox"/> 根	行 <input type="checkbox"/> 隊	礼 <input type="checkbox"/> 況
分	手	態
成	暖	清
少 <input type="checkbox"/> 末	真 <input type="checkbox"/> 至	一 <input type="checkbox"/> 討
度	瓜	射

パズルで グッズプレゼント

好評の漢字穴埋めパズル。真ん中の□の中には、左右、上下のどちらからも2文字熟語ができるような漢字が入ります。パズルを解いて出た漢字を並び替え、年末に関係のある3文字熟語を3つ作ってください。

正解者の中から5名様に、水に浮かべられるかわいいキャンドルをプレゼント!



資料館
売店で
買えます!

<103号の答え>



クイズの答え

<応募方法> 締め切り1月14日(金) 必着
官製はがきに、クイズの答えと住所、氏名、電話番号、「へいわ」104号の感想を記入の上 〒852-8117 長崎市平野町7-8 (財)長崎平和推進協会「へいわ」104号プレゼント係までお送りください。抽選で5名様に浮きキャンドル1つをプレゼントします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

会費納入のお願い

本年も残すところ、数日となってまいりました。

今年も、会員皆様方の格別のご助力で様々な事業を実施してまいりましたが、新年においても限りある予算の中で、意義ある企画を展開してまいりたいと考えております。

皆様方が納入くださる会費が、会

報「へいわ」の発行や、「市民のつどい」などあらゆる事業を展開していく中で大きな財源となります。

どうか、会費が協会の活動を大きく支えていることをご理解いただき、今年度未だ納入されていない方は、郵便局でお払い込みいただけますようお願いいたします。

口座番号 0183054286
財団法人 長崎平和推進協会

Series シリーズ

8.9展出展作紹介



「時空の守部一兎」

吉田 隆さん (長崎市桜馬場)

私は、どんな状況になっても平和の尊さと命の尊厳を訴える「ながさき8.9平和展」が続いていき、一人でも多くの方が何らかの形で参加していただけることを願ってやみません。



「まんなか赤」

岩永 勉さん (長崎市大島町)

原爆のことは、資料館の展示による知識だけですが、8.9展示期間だけでも考える時が持てればと思っています。

ご寄附ありがとうございます

ございました

会員数報告

- ・村田マス子 (五千円)
- ・貝塚市立第五中学校 (二千二百五十三円)
- ・匿名希望者 (五千円+三万六千円=四万一千円)

維持会員	1,135名
賛助会員	128名
臨時会員	8名
学生会員	7名
合計	1,278名

原爆資料館所蔵展の案内

原爆資料館所蔵資料展
原爆資料館

☎ 844-1231



変形した瓶
平成16年5月6日、一校国道206号電線にお差入らせた約1.8mの土中から発見されたもの。高熱のため溶けている。

原爆資料館の前身である国際文化会館当時から収集及び寄贈を受けた原爆資料館の所蔵資料の一部を展示する企画展を開催します。

期間 平成17年2月4日(金)～

3月29日(火)

時間 午前8時30分～

午後5時30分

場所 原爆資料館企画展示室

料金 原爆資料館の観覧料が必要です。大人200円、小・中・高校生100円。

※長崎市民の方は平成19年9月まで原爆資料館の観覧料が無料となるため、企画展示室も無料で観覧できます。(ただし、市民カード、免許書等の長崎市民であることを確認できるものが必要です。)



「空襲警報発令中」の看板寄贈者が今から10年位前、戸町4丁目にあった長崎バス男子寮の1F倉庫にあったものをゆずり受け、自宅に保管していたもの。表には赤地に白で「空襲警報発令中」、裏には緑地に白で「警戒警報発令中」と書かれており、戦時中の様子がうかがえる。

本紙は再生紙を使用しています。

平成十六年十一月二十日発行
印刷 株式会社 インテックス